

「ありがとう旭小」。統合を前に体育館に集まった旭小の児童と教職員たち



北海道新聞

発行所
北海道新聞社
郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
© 北海道新聞社 2007

特別号

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購入申し込みは
0120-464-104

道新スポーツ

90年 地域とともに さよなら旭小 寿小と統合 4月に中央小誕生

さよなら旭小

釧路市立旭小学校(津村 業生は約一万六千人に上った)は四月に寿小と統合するため、三月末で九十一年の歴史に幕を下ろす。児童、教職員、卒業生らは、一世紀近くに及ぶ、多くの思い出が詰まった学び舎(や)との別れを惜しんで

市内中心部の川上八にある旭小は一九一六年(大正五年)十月、釧路第四尋常小学校として開校した。ピーク時の一九五四年には児童数が二千二百人を超えたが、中心街の空洞化などで本年度は九十二人と百人を切っていた。これまでの卒業生は約一万六千人に上っている。

四月からは近くの寿小と統合し、寿小の校舎を使う「中央小」が誕生する。卒業する六年生は共栄中と北中に、五年生以下は中央小のほか、共栄小、城山小へ通うことになる。

統合を前に津村校長は「九十年の歴史を刻んだ旭小の伝統と精神は、永久に受け継がれ、人々の心の支柱となると思う」と語っている。

児童会長の川崎隆豊君(六年)は「統合するのは寂しいですが、今までの思い出を胸に、それぞれの学校で頑張りたいです」と、母校との別れを惜しみながらも前向きに話している。六年生十八人を送り出す卒業式は三月十九日、最後の行事となる修了式と校旗返還式は同二十三日に行われる。

「旭」と名の残っている(間)、と考えて送りました。何かの足しにして下さい」。釧路市中心部に寿小と統合する市立旭小の津村伸一校長の元旭小一連の封書が届いた。着出人は「根室四主婦」とだけ書かれ、中には一万円が入っていた。

一九一六年(大正五年)

旭の名

開校の同校は中心街の空洞化など、かつて千八百人の児童が通っていた旭小と統合する。校舎は寿小となり、旭小は九十年の歴史に幕を降ろす。

四六年に旭小に入学した津村業生は「当時を懐かしんで、学校での給食が脱

脂肪を減らすことも、おなかにとっていいので、給食を減らしたと振り返り、給食の支払いをしない部分もあると思う」と、心強いのうだった。

手紙を送った津村校長は「旭小が心のふるさととなつたという気持ちで、懐かしんで、せめて記念誌を送りたいので連絡を下さい。」(藤谷洋)

まど